

## オペラ『御柱』あらすじ

このドラマは、古代のスワ（諏訪）地方に時代設定をしたフィクションの神話オペラである。

ヤマト国との戦に破れ、神龍の奇跡によってスワ湖西に漂着した出雲の若者ミナカタは、スワ一帯の雄大な自然とその神々しさに魅かれ、生まれ変わった命をスワのために投げ出そうと決意する。湖北一帯を治めるヤサカ（姫）との出会いにより、ミナカタの勢力は次第に強まり人望を高めていく。しかし、そのために湖南一帯を治めるモレヤ（族長）との間に緊張が生じてしまう。

一方、モレヤにつながる二人の人物、クサミチ（若者）とタカテル（クサミチの妹）はそれぞれの思惑（恋の成就）でこの緊張状態を利用し、自らの望みを成就させようとする。その策謀はついにミナカタとクサミチとの直接対決へと進ませるのだが、スワ一帯の平和を願うタケイ（男：ヤサカの後見人）の仲裁によって、二人は命を留める。

やがて仇敵ミナカタを追って、ミカヅチ（ヤマトの将軍）率いるヤマトの騎馬軍がスワを目指しているとの情報が届く。クサミチの野望はヤサカへの恋の成就に止まらず、一気にスワ全体の覇権へと突き進む。モレヤに対するタケイの援軍依頼にもかかわらず、クサミチはミカヅチ軍とミナカタ軍の決着を見てから、どちらに加勢するかを決めるように進言する。多勢に無勢のなかスワの寒さとスワ湖の結氷を利として決戦に臨もうとするミナカタ軍。やがてタカテルの説得に応じたモレヤがその軍を従えてミナカタ軍に合流する。氷上の白兵戦のなか、ミナカタはミカヅチとの一騎打ちに挑むが、この機を狙ったクサミチの凶刃に倒れてしまう。タケイとモレヤの軍がミカヅチ軍を敗走させ、スワは護られるが、クサミチの刃がモレヤを、そしてタケイをも襲う。そして野望も破れて全てを失ったクサミチはタカテルによって命を絶たれる。

あまりに多くの犠牲ではあったが、ミナカタとモレヤの遺す「スワはひとつ」にヤサカは心を打たれる。そして、尊い犠牲は「気力」・「霊力」・「呪力」・「理力」の四つの力をスワ一帯に降臨させ、スワの人々に永久の平和と幸をもたらすだろうと予言し、自らも生きながらにして天に帰っていく。

四人の昇天はかくして四つの力に収斂され、スワ人の新たなる命を蘇らせるためであったことが判明する。その再生を象徴するかのよう、四本の御柱が浮かび上がり、大合唱のなか舞台は幕となる。